

令和7年度鴨川市総合計画審議会 第1回会議 会議録

1 日 時 令和7年5月12日（月） 午前10時00分から午前11時35分まで

2 場 所 市役所本庁舎4階大会議室

3 出席者

(1) 委員

No.	氏 名	所属・職名	備 考
1	飯塚 和夫	安房農業協同組合 常務理事	
2	島田 誠一	鴨川市商工会 会長	会長
3	鈴木 健史	一般社団法人鴨川市観光協会 理事	
4	立野 慶子	社会福祉法人鴨川市社会福祉協議会	副会長
5	田中 美恵子	学校法人鉄蕉館亀田医療大学 学長	
6	小松 直樹	鴨川市金融団 (千葉興業銀行鴨川支店長)	
7	伊熊 雅美	館山公共職業安定所 所長	
8	伊丹 賢	鴨川記者クラブ (有限会社房州日日新聞社鴨川支局長)	
9	村田 智子	司法書士・行政書士 村田事務所 所長	
10	北本 綾子	オルカ鴨川F C株式会社 取締役社長兼GM	
11	石井 一久	公募委員	
12	須藤 理恵	イオンリテール株式会社南関東カンパニー 東千葉事業部イオン鴨川店 店長	
13	高橋 哲	株式会社良品計画無印良品みんなみの里 店長	

(順不同、敬称略)

※欠席

No.	氏 名	所属・職名	備 考
1	田原 智之	鴨川市漁業協同組合 参事	

2	海老原 正明	医療法人宏和会エビハラ病院 理事	
---	--------	---------------------	--

(順不同、敬称略)

(2) 市

No.	所属・職氏名	備 考
1	市 長 佐々木 久之	
2	副市長 平川 潔	
3	教育委員会 教育長 蒔苗 茂	
4	企画総務部 部 長 野村 敏弘	
5	市民福祉部 部 長 鈴木 克己	
6	建設経済部 部 長 川崎 正博	
7	教育委員会 教育次長 山口 昌宏	
8	企画総務部企画政策課 課 長 滝口 俊孝	
9	企画総務部企画政策課 課長補佐 田中 仁之	事務局
10	企画総務部企画政策課企画係 係 長 西宮 孝一郎	〃
11	企画総務部企画政策課企画係 副主査 渡邊 俊	〃
12	企画総務部企画政策課企画係 主任主事 小粒 将一	〃

(3) 株式会社サーベイ リサーチ センター（鴨川市総合計画策定支援業務委託事業者）

No.	所属・職氏名	備 考
1	世論・計画部 世論・計画3課 課 長 石塚 敦	
2	世論・計画部 世論・計画3課 研究員 横田 栞	
3	営業企画部 営業推進部 営業推進課 課 長 岡田 良	

(4) 傍聴者

5名

4 資料

- ・次第
- ・委員名簿
- ・席次表
- ・出席者名簿
- ・資料1 令和6年度鴨川市まちづくりアンケート調査結果報告書（概要版）
- ・資料2 第3次鴨川市基本構想について
- ・資料2-1 第3次鴨川市基本構想のイメージ
- ・資料3 まちづくり市民会議の開催について
- ・参考資料 第2次鴨川市基本構想
- ・令和6年度第3回会議会議録

5 会議内容

(1) 開会（午前10時00分）

(2) 委員解嘱の報告

公募委員 鈴木 友里恵氏から委員辞職の申出があったため、令和7年4月18日付けで、解嘱したことを事務局から報告した。

(3) 委員交代の報告、新たな委員の委嘱及び紹介

鴨川市金融団幹事が館山信用金庫鴨川支店から千葉興業銀行鴨川支店に変更になったことに伴い、館山信用金庫鴨川支店長 田村 知己氏から委員交代の申出があったため、令和7年5月12日付けで、同氏の後任委員として、千葉興業銀行鴨川支店長 小松 直樹氏を委嘱したことを事務局から報告するとともに、小松委員を紹介した。

また、イオンリテール株式会社南関東カンパニー東千葉事業部イオン鴨川店店長 須藤 理恵氏と株式会社良品計画無印良品みんなみの里店長 高橋 哲氏を新たに委嘱したことを事務局から報告するとともに、須藤委員と高橋委員を紹介した。

(4) 委嘱状交付

市長から上記委員へ委嘱状を交付した。

(5) 市長あいさつ

（要旨）

委員の皆様におかれては、日頃より市政の進展に理解と協力をいただいていることに御礼申し上げます。

昨年度は、市内12地区での市民懇談会、まちづくりアンケート等の機会を設け、市民の意見や要望を聴取させていただいた。また、委員には、本市の現状や課題の整理、第4次5か年計画の検証経過などについての審議を経られ、これらを踏まえ、第5次総合計画を策定する段階へと進んでいきたいと考えている。

本日の会議では、昨年度に実施したまちづくりアンケートの結果についての報告、そして、総合計画の骨子について審議をいただき、さらには、市民参画の推進ということで、まちづくり市民会議の開催について説明をさせていただく。

所信表明でも述べたように、「夢と希望が叶うまち」を目指し、このまちに生まれてよかったと思えるまちづくりのために、持続可能で健全な財政基盤の確立が不可欠であることから、この総合計画の策定は、非常に重要な指針となるものと認識している。

委員の皆様には、それぞれの立場から忌憚のないご意見をいただくようお願いする。

(6) 会長あいさつ

(要旨)

前回の会議では、鴨川市の産業等の現況や地区別懇談会の結果を踏まえ、計画の検証や課題等について審議をした。

本日の会議では、まちづくりアンケートの結果や、まちづくり市民会議の開催方法について説明をいただき、次期計画の骨子等についても審議をいただく。

冒頭、佐々木市長のご挨拶にもあったとおり、委員の皆様には主体的かつ建設的なご意見をいただくようお願いする。会議の円滑な運営にご協力をお願いする。

(7) 議 題

鴨川市附属機関設置条例第5条第2項の規定に基づき会議が成立したことについて事務局から報告した後、同条第1項の規定に基づき、島田会長が議長となって議事を進行した。

議長から、名簿順に伊熊 雅美委員、及び伊丹 賢委員を会議録署名委員として指名した。

議題1 鴨川市まちづくりアンケートの結果について

資料1により、鴨川市まちづくりアンケートの結果について事務局から説明し、資料のとおり承認された。

コメント及び質疑等は次のとおり。

・回収結果について

《飯塚委員》

回収率について、前回の29.4%から今回は33.8%と上がっているとの説明があったが、何か対策をされたのか。また、今回の回収率は、高いのか低いのか教えていただきたい。

《小粒主任主事》

アンケートの回収率が上がった要因としては、前回のアンケートの期間が2週間程度であったものを若干延長したことと、督促状を含めたお礼状をお送りしたこと等が考えられる。回収率が50%程度というところを目標にしていたが、それには届いてないというところもあり、高いとも言い切れない数字と認識している。

・市の取り組みに対する満足度の評価点について

(観光客を誘致するための取組)

《鈴木委員》

満足度の評価点の一番下、減少点数が大きい取り組み上位3位の中に不名誉ながら、「観光客を誘致するための取組」が入っている。

鴨川市の意向として、鴨川観光プラットフォーム株式会社を使って、鴨川市の観光振興を担って欲しいという目的が今でも存在するのか。その方針に間違いはないのであるなら、実際には真逆のことをやっていると思っている。

是非、市長が右向けと言え、部下も右を向くというようなガバナンスを確保していただきたい。これは一事が万事、全てのことに言えるので、大切なこととして提言をさせていただく。

《島田会長》

要望として承る。

(行政サービスのデジタル化)

《須藤委員》

まちづくりを進めていく上で重要だと思うものの下位5位の中で、最下位に「行政サービスのデジタル化」とある。私どものテーマとして全国でデジタル化を推進しているが、これは民間企業としての取組であるので、行政サービスとして市民の方々は何を求めているのか。何か我々でも協力できるようなところがあればヒントをいただきたい。

《田中課長補佐》

行政サービスのデジタル化があまり望まれていないという結果について、推測ではあるが、本市の場合、高齢化が進展している状況のため、デジタル化を進めてもそれに付いていけない方々が多いのではないかと考えている。

国の政策・方向が示されている中で、デジタル化を進めなければならないという部分があるため、高齢者でも窓口で混乱しないような方法として、ほぼ自動的に進められる窓口等、必要な部分については、そのような形で取組を進めている状況にある。

《小粒主任主事》

資料1の22頁に記載しているが、市が行政サービスのデジタル化を推進するにあたり実現して欲しいサービスとしては、「風水害や地震などの災害情報や防犯情報がリアルタイムで配信される」が43.5%で最も高い割合となっている。

(公共交通の充実)

《村田委員》

市の取り組みに対する満足度で下位5位の最上位に「公共交通の充実」とあるが、これについては、特に電車が年々ひどくなっている。毎年ダイヤ改正のたびに特急が減っており、それを解消しないと人口減少にも歯止めがかからず、観光者数も減っているのではないかと考える。これらについて市ではどのように対応しているのか。

《滝口課長》

特急の本数が減らされている理由としては、外房線の勝浦から安房鴨川間と、内房線の安房鴨川から館山間が、久留里線に次いで千葉支社管内で利用者が減少しており、赤字幅

が非常に大きい路線ということである。高速バスについても、現状では東京間で1日当たり約20本というペースは維持されているが、バス事業者からの情報によると、まだコロナ禍前の水準まで戻りきっていないとのことである。

また、鴨川市内の生活路線と言われるバス路線についても利用者が減少している状況だが、最近ではバスの停留所まで来るとも難しいような方々が増えており、バス路線をそのまま維持するというよりも、予約制乗合タクシーの運行を少しずつ増やしてきている状況にある。

利用者の方々のニーズの変化に対応する形で、公共交通のあり方そのものも見直しをしてきているというような状況であるが、総合的に利便性が低下しているという、アンケート結果では厳しい結果となったので、少しでも市民の皆様にとっての利便性が上がるような取組については、今後も引き続き事業者と協力しながら検討していきたいと考えている。

《村田委員》

鈴木委員にお聞きしたいが、鴨川に観光に来られる方の内、ホテルの宿泊者については若い方が多いのか、それとも年配の方で、電車で来られる方が増えているのか。

《鈴木委員》

ファミリー層が多い。過去は団体志向であったが、今は完全に個人客志向になっているため、一時に動くグループの総数というものは減っている。しかしながら、客室の稼働率は減っておらず、むしろ非常に良くなっている。

私のホテルでは、自家用車のお客様が95%以上という状況である。これではJRの特急が減るのも仕方がないのかもしれない。ただ、その代わりにバスの利便性というものはかつてより大きくなっていると思っている。

《村田委員》

何となく電車がなくなるとお年寄りが来にくいのかなと思う。内房線と外房線は止まることも多いが、こういった不便さが人口減少に繋がっているように思う。

《高橋委員》

みんなみの里で店長をしているが、若いお客さんが増えてきていると感じている。しかし、あくまでも車で来られる方である。逆に言うと、若い方で車の免許を持ってない方や、高齢の方も免許を返納されているような状況を踏まえると、高速バス等の重要性が非常に高いと思う。

今の議論は、海側の交通網の話がメインだと思うが、山側の交通網も非常に大事で、去年、長狭街道を走っていた路線バスが廃止されたことで、JRの内房線で来られていたお客様がなくなってしまっている状況にある。トータルで考えるとコロナ前まで戻っていないことは事実だと思うが、これからどう誘致するかを事業者等と交渉をいただければありがたいと思っている。

間違いなく鴨川に対して関心が高い方が多くなっているのは肌感で感じており、チャンスはあると思っている。そのチャンスをどう生かすかは、先んじて交通網をどう整備できるのかどうかだと考えている。

《鈴木委員》

鴨川市内で移動する交通網の問題が大きいと思っており、自動運転のバスの実証実験を

受け入れている市町村があるが、鴨川市もその実証実験の場として手を上げていただきたい。最近、グーグルのWaymoが自動運転の配車サービスを日本でスタートするという事で、既にグーグルの車が動いており、調査を開始している。この5年以内に絶対に実現する流れだと思っているので、鴨川市を対外的にPRする非常に良いツールになるものと思っている。

(大学との連携・協働による地域課題への取り組みの促進)

《田中委員》

市の取り組みに対する満足度の評価点で減少点数が大きい上位3位の「大学との連携・協働による地域課題などへの取り組みの促進」について減点幅が大きく、大学に所属する者として責任を感じている。

亀田医療大学としては、認知症カフェや、健康に焦点を当てた市民向けの公開講座を開催しているが、市との協働という観点ではまだ弱いという気はしているので、なぜこのように減点幅が大きかったのか、その課題についての市の現状を聞かせていただきたい。

《副市長》

交流事業としては、実際に大学の方から来ていただいて、講義や学習会の開催や、地域の中へ学生に入ってもらい意見をいただくという事業があるが、市側からのアプローチが少なくなっているのかなとも思う。実際にこういった形で連携ができるのか、また改めて考え、協議させていただきたいと思っている。

(生活基盤分野の取り組み)

《北本委員》

生活基盤の取り組みについて不満と回答された方が多い傾向にあるが、全ての要望に応えるのは財源確保の点から難しいと思うが、現在、市で優先的に取り組んでいるものや、今後の予定等について教えていただきたい。

《副市長》

インフラが50～60年経過し、老朽化しているというのは現実である。こうした中で橋梁やトンネル等々については、長寿命化計画に基づいて調査を行っており、その中で優先順位をつけて取り組んでいる状況にある。

これらは市民生活に直結する部分となるため、最優先でやっていくことが大きな姿勢だと思っている。ただ、現実には財源が限られており、市の単独費だけでなく、国や県の補助制度などの財源も併せて、着実に進めていきたいと考えている。

《石井委員》

総務省で、自治体の公共施設の解体をサポートしていくという話があったと思う。鴨川市として、今後の取組として、その辺の動きで決めていることがあれば教えていただきたい。

《副市長》

これまで公共施設の廃止については補助制度等がなく市の単独費で行っていたが、この4月から施設の統合、機能集中が伴う施設の除却については、国からそれらに係る費用の

一部を充当するという制度となっている。

鴨川市内では、学校統合等で廃校舎が残っている中で、その利活用が進まないという面もあるので、このような制度は積極的に活用していきたいと考えている。

議題2 第3次鴨川市総合計画の骨子について

資料2により、第3次鴨川市総合計画の骨子について事務局から説明し、資料のとおり承認された。

コメント及び質疑等は次のとおり。

・将来都市像について

《伊丹委員》

長く新聞記者として、総合計画の策定を何度も見てきて、こういったスタイルでない行政は作れないというのは承知している。

ただ将来都市像は、まちのキャッチコピーになる。色々な決め方があると思うが、みんなが分かりやすく、誰もが共感して、私もそのまちの中で生きていきたいと、そういうものを作っていたらいいと思う。

・将来人口の見通し（鴨川市人口ビジョン）について

《石井委員》

人口ビジョンについては、現行のものをさらに更新するという位置付けになるのか。民間企業が将来のマーケティング分析をする際は、人口問題研究所の将来推計データを使用するが、市としてはそれとは違うものを掲載するのか。

《小粒主任主事》

現行の人口ビジョンは、平成27年の国勢調査人口を基準に策定したものとなっているが、令和2年の国勢調査の結果を反映した推計結果を基に、市として合計特殊出生率や移住定住の増加を見込んで、改めて目標数値を設定し直すことを想定している。

・基本方針について

《鈴木委員》

歳出と歳入に関係することで分けて考えたときに、歳入に関係する施策が非常に重要になってくるように思う。基本方針1から6までの間に、経済的なファクターが含まれている方針や施策はどこにあるのか。

《滝口課長》

産業振興を含む部分としては、基本方針1「地域の特色を生かしたにぎわいと活力あるまち」という位置付けである。第2次基本構想までは、3番目に位置されていた部分であるが、佐々木市長の下で稼ぐまちへの転換を図っていくという視点も踏まえて基本方針の1番目に持ってきたという経緯がある。

また、基本方針6「健全で効率的な行財政運営を実現するまち」の(2)として健全な財政基盤の確立という項目もあり、特に市の収入という意味でその増加を図っていくための

取組についてはこちらになるかと思うが、地域全体で稼ぐための施策としては、基本方針1になるかと考えている。

《須藤委員》

我々小売業の立場でみると、客層は地域の方々と観光客で分かれる。弊社では2019年と2024年では観光客数は増えてはいるが、総客数を対比すると落ちており、まだ戻ってきてはいない。

人口減少が進む中で、市を残すためには、観光が1つの武器になると思う。基本方針の中で、観光客について、首都圏・全国のどの層に力を入れていくのかを教えていただきたい。

《副市長》

人口が減少する中で、交流人口は経済的な面でもかなり大きな部分がある。鴨川市の交流人口をみると、1つは観光入込で、もう1つ大きなものが医療。この入込も年間100万人程度あり、こういった方々が市内に来ていただいて様々な消費をするということは、大きな経済的な効果があると思っている。佐々木市長からも、経済の部分に力を入れるということで交流人口の増加はこれまで以上に取り組んでいく必要があると思っている。

具体的に現在の取組では、鈴木委員からも話があったが、鴨川市観光プラットフォームで観光PR等々について力を入れている。まだ足りないというご指摘もいただいているので、より効果的にやれる方法を模索し、観光の新たな財源として、宿泊税の検討もしている。こういった新たな財源を確保しながら、観光客の誘致について取り組んでいきたいと思っている。

《須藤委員》

観光はやはり資源であり、経済効果が大きいことから、是非企業と市が連携を取っていききたいと思う。今後の会議では、具体的な数値を示していただければ、我々企業も、戦略として進めていきたいのでお願いしたい。

《立野副会長》

交通網について、最近東京に行く機会があったのだが、特急の本数が大幅に少なくなっていることに初めて気づいた。高速バスが特急化されていることは知らなかったので、電車で行くことしか頭にはなく、電車の不便さを少し感じたところではある。

災害時には電車の交通網は麻痺しやすく、道路網も災害で通行不能になると、陸の孤島になりかねないところもあるので、交通網の確保というのは重要だと思う。

《田中委員》

観光振興や移住促進に関係して、南房総市の方では、最近お洒落なレストランやペンションが急増していると聞く。鴨川市でも、様々な展開をされている移住者の方がいることをテレビ見て知ったのだが、やはり今は中高年もSNS等の時代なので、お洒落等、そのような魅力のプラスは大事だと思う。観光プラットフォーム等でも協議されているのかもしれないが、このような視点も検討いただきたいと思う。

《鈴木委員》

表現について、市民に伝えるべきことなので、市長の「稼ぐまち」というタイトルを大きく出すべきだと思う。市長が大切だと考える「稼ぐまち」と「健全な行財政」の2本柱を

分かりやすく表現していただきたいと思う。

(健全な財政基盤の確立)

《石井委員》

基本方針6の(2)健全な財政基盤の確立について、今回の基本構想等についても中長期的な視点での計画を今後作ってことになるかと思うが、市の財政状況の資料を見ても、単年度会計の資料しか出ていない。財政基盤の確立ということであれば、中長期的な財政基盤の数値的な資料が今後必要になってくるのではないか。

《滝口課長》

5か年計画の策定に当たっては、財政の見通しを併せて示す形でこれまでも作成をさせていただいている。特に近年の厳しい財政状況を踏まえ、財政等適正化基本方針も別途作成しており、その中では向こう5年程度の将来の財政を見通して、収入を確保する方策、あるいは歳出を削減する方策と併せて財政推計の見通しを示させていただいている。当然その推計方針を踏まえてこの基本方針6に基づいた施策を考えているので、詳しい推計等についてはそちらをご確認いただきたい。

《石井委員》

人口推計を誤ると、税収の見方が大きく変わるので、今後の人口推計を踏まえての展開を期待している。

《村田委員》

佐々木市長から、これから稼ぐ方針でいくということだが、具体的な施策はこれから決まるという認識でよいのか。

《市長》

稼ぐ自治体ということで、これから出していこうと思っているが、今考えているのは、一番はふるさと納税、あとはネーミングライツということで、企業様からもお話が来ているような状況であり、スピード感を持ってやっていきたいと思っている。

また、企業誘致についても、県から一部話が来ているので、県との話し合いを進めて、稼げる自治体として力を入れていきたい。

あとはやはり観光立市であるので、プラットフォームと連携をしながら、観光についても力を入れて取り組んでいきたいとは思っている。

《北本委員》

私の友人は鴨川によく来るが、駐車場があらゆるところで無料であることに驚かれる。鴨川に住んで数十年になるが、ずっとそのような状況であるのは、何か事情があるのか。稼ぐという意味では、そういったところで地道に稼いでいくのもひとつの方法だと思う。現在、駐車場関係で何か進行しているものがあれば教えていただきたい。

《副市長》

駐車場については、ご指摘のとおり無料となっているが、有料化については、ここ3、4年で検討をしており、この夏には一部有料化をしたいということで、6月議会への上程を考えている。ただ、駐車場として利用している場所が国有地であったりして、料金の徴収が難しい部分もある。また、他の駐車場についても同じように扱っていかなければなら

ないということもあり、中々実行できなかったということもあったのだが、有料化の意義等を考慮しながら進めていきたいと思っている。

民間の方では有料化しているところもあるので、そういった部分の整備促進という側面も含めて、この夏は一部有料化に踏み切りたいと思っている。

《立野副会長》

稼ぐ自治体としての取組として、鴨川に移住して来られる方にとって魅力あるまちにしたい。若い世代が増えることによって税収の増加につながると思うので、移住者を増やす施策をもう少し考えていただきたい。

議題3 まちづくり市民会議の開催について

資料3により、まちづくり市民会議の開催について事務局から説明し、資料のとおり承認された。

コメント及び質疑等は次のとおり。

《村田委員》

趣旨で、「無作為に選ばれた市民」及び「中学生」とあるが、中学生を選定した理由は何か。

《西宮係長》

過去には、中学生が市に対して質問し、それに対して答弁するといった議会形式で行ったこともあるが、今回は、中学生にも大人たちと一緒にまちづくりについて協議することを体験してもらいたいという意図がある。

高校生以上の学生については、16歳以上の市民として、無作為抽出を考えている。

《村田委員》

できれば鴨川から出ていった大学生や、市外で生活したことがある人が鴨川をどう見ているのかといった意見についても考えていただきたい。

《西宮係長》

そういった方のご意見も非常に参考になると思うので、検討させていただく。

《鈴木委員》

村田委員の意見は大変重要だと思っている。アンケートの間21と間22を見ると、上位の項目は、ほとんど鴨川市が持っているものである。もっと鴨川市に魅力をつけていくこととなると、鴨川に何が足りないのかといった点が非常に大切になると思っている。そうすると、外部から鴨川を見つめるという視点が必要であり、村田委員の意見に大いに賛同する。

《石井委員》

ワークショップの中身についてももう少し具体的に教えていただきたい。

《西宮係長》

5年前に開催した住民協議会では、それぞれの分科会で異なったテーマで議論を行ったが、今回は基本的には同様のテーマについて議論を行い、それぞれのグループで意見を集約してもらうような形を予定している。

《石井委員》

テーマの中身についてはまだこれから検討するということか。

《西宮係長》

昨年度1年間かけて、市民からの意見聴取を実施してきた中で出てきた課題や、当審議会でもいただいている課題等の中から、どれを優先してやるべきなのか、どういった強みを生かしていけばいいのかというところを、それぞれの市民の立場で意見をいただくことを考えている。

《高橋委員》

こういった会議だと、ファシリテーターやアドバイザーが重要な存在になるのかなと思うが、どういった方が務めるのか想定はあるのか。

《西宮係長》

総合計画の策定業務を委託しているサーベイリサーチセンターにファシリテーター等の手配を依頼することとしており、外部の専門家の方に務めていただくことを想定している。

《高橋委員》

傍聴は可能なのか。

《西宮係長》

会議は公開で行う予定でいる。

議題4 その他

《伊丹委員》

まちづくりアンケート調査の結果については、現在のところでは市民は知らない状況にある。こういった情報については、市のホームページやSNSを使って、可能な限り早く市民に知らせることが良いと思う。

《滝口課長》

アンケートについては、当審議会に報告するという目途で作業を進めてきた関係があり今回報告させていただいている。

市民の皆様への周知という点については、市民の皆様はこの計画の策定そのものをご理解いただくという点でも必要だと思うので、委員の意見を踏まえて積極的に情報周知できるように努めていく予定でいる。

《須藤委員》

まちづくり市民会議の内容等、そういった取組の成功事例を全国に発信することで鴨川市を全国にアピールできるので、ホームページやSNSを使って、情報を発信することを希望する。

・次回会議の日程について

事務局から、次回会議の日程については、7月中旬以降を予定しており、調整の上で改めて連絡することを報告した。

(4) 閉会 (午前11時35分)

(以上)

鴨川市附属機関等の会議の公開に関する実施要領第7条第3項の規定により、令和7年度鴨川市総合計画審議会第1回会議における会議録の内容について確認します。

令和7年6月6日

伊丹 賢

伊熊 雅美
